

児童生徒の健やかな成長を願って

学校だより

岡山県立西備支援学校

編集

校長 原田 敬子

No.15

令和4年3月15日 発行

高等部及び小学部中学部の卒業証書授与式の時期となりました。せいびの丘に本校が開校してから、多くの先輩たちが巣立っていきました。今年度は開校40周年をお祝いし、地域のボランティアの方とともにセイモンをリニューアルし、記念式典をしました。また、本校の教育活動にご協力いただく「せいび応援団」の輪をさらに広げるために学校運営協議会を設置し、地域の方のご協力を得た新たな活動を行うこともできました。今後も温かい地域のみなさまとともに、素晴らしい自然に囲まれた環境の中で、西備支援学校の教育活動を行っていきたいと思います。今年度も、新型コロナウイルス感染症拡大のため、縮小・中止した活動もありましたが、学習活動の充実と感染対策との両立を目指して、工夫しながら地域の方々とともに子どもたちの成長を支えていきたいと思っています。

<学校での防災教育・子どもたちの成長>

【A小の取組】 避難の基礎力を培う

A小学部では年間3回の避難訓練の事前指導で、突然に非常ベルや緊急放送が鳴り、いつもと違う状況になっても落ち着いて行動できるよう、避難の基礎となる行動を指導・確認をしています。A小学部の児童にとって避難する時に最も大切なことは、周囲の大人の指示を聞き、それに従って行動できるということです。その上で避難の原則「おはしも（おさない はしらない しゃべらない もどらない）であったり、地震発生時の「あかおに」（あわてず かくれる おちついて にげる）であったり行動がとれるようにしています。まずは、近くにいる先生の指示をよく聞き、何をするのか理解し、適切な避難行動をとることを繰り返し練習することで、将来、災害に見舞われた時に、近くに指示をしてくれる人がいなくても、自分で判断し、身を守ることができるよう基礎力を培っています。



【A中の取組】 防災に対して備える力を養う

A中学部では、防災教育として、避難訓練前に防災のDVD「川がはんらんしたらどうするか？」と「地震が起きたらどうするか？」を視聴したり、イラストカードを使って防災かばんに入れるものをクイズで学習しました。「災害の種類や災害はいつ起きるか分からないこと」や「命を確保するためにどんなことをするか」など実際に起きた時のことを考えた学習をしました。日頃から、防災に対して準備をしておくことの大切さや、学校にいる時に大きな災害が起きた場合は、家に帰れないことを考えておくことも学習しました。また、ミシンを使い、防災頭巾を自分で作ることで、防災を身近に感じ、いつ発生するか分からない防災に対して、自ら備える力を養いました。



【B部門の取組】 体験を通して防災について学ぶ

B小学部では、避難訓練に合わせて、防災について学びました。事前学習で



緊急地震速報を聞き、身を守る行動や避難時の約束を確認することで、「予告なし避難訓練」でも落ち着いて行動する力を養うことができました。また、給食で防災食を食べる体験をすることで、非常時の生活について考えることができました。B中やB高では、「社会/理科」の授業で、『地域の防災 まなぼうさい!』の学習をしました。西日本豪雨災害を経験した先生の実体験を聞いたり、大雨や台風のニュースを映像で確認したりすることで災害が身近なものと感じ、災害に備えることの大切さを学びました。また、防災かばんに入れておく物を実物を見ながら考えたり、段ボールベットに横になり、避難所を想定したりして、実践的な経験を積みました。



【A高の取組】 避難所での生活を体験し、防災に備える力を育てる

A高等部では、災害時の生活を体験をすることで、防災に備える力を育てています。1年生は避難所で使われる段ボールベットを自分たちで組み立て、実際に寝てみました。生徒からは、意外に簡単に組み立てられて、寝心地が良かったという感想が多くありました。また、マッチの火を焚火にする体験もしましたが、生徒が想像したよりも難しく、苦労してお湯を沸かすことができました。

2年生では、木と木をこすり合わせて火を起こそうと約1時間頑張りましたがうまくいかず、改めて火の大切さを感じました。その後はファイヤースターターで火を点け焚火にし、飯ごうでご飯を炊き、防災食のレトルトカレーをかけて食べました。

大災害が起きるたびに避難所での生活が問題になっています。「初めてが苦手」な人は避難所での生活は特に不安が大きく、その不安を少しでも軽減するため「安全な時に一度避難所体験をしておく」ことが大切と言われています。今回の体験が、災害に対する心の備えとなったことと思います。



<お知らせコーナー>

◇第3回学校運営協議会の報告

3月3日（木）、第3回協議会を行いました。この協議会では、地域代表8名、PTA会長、校長の10名の委員が、子どもたちの豊かな成長を目指して話し合っています。子どもたちは、今年度も校外学習や地域での学習活動、学校間の交流、居住地校交流など、いろいろな場面で地域とつながりましたが、この協議会委員の協力によるものもありました。子どもたちは、学校や家庭に加え、地域と連携することにより、さらに豊かな学びができると思っています。これからも、地域の力を得ながら、学校運営をしていきたいと思っています。

学校施設の改修・修繕

～安全な環境に向けて～

本校は、開校から40年が経過し、施設の老朽化により、保護者の方から改善要望などを聞いています。学校では、安全面や感染対策等の緊急性のあるものを優先して、計画的な修繕を行っています。令和2・3年度では、感染対策としてトイレや食堂に自動水栓設置、エアコンの取替（一部）を行いました。また、ハ工対策として各教室や体育館への網戸取付け、高等部生徒の教育環境整備として実習地屋根の拡張やD棟雨よけ屋根の張替えを行いました。学校では、全教職員が毎月、校内の安全点検を行い、危険箇所はその都度修繕しています。今後とも、安全安心な学校となるよう、予算の範囲で対応していきたいと思っています。